

Japan Association of Synthetic Anthropology

総合人間学会

Newsletter 第49号 2024年5月8日発行

発行人：古沢広祐
事務局：〒112-86060 文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部社会学科 松崎良美研究室
電話：03-3945-7847 (直通) / ファックス：03-3945-7626
E-mail：contact@synthetic-anthropology.org

【目次】

I. 第18回研究大会について	p.1
II. オンライン特別企画、関西談話会のご案内	p. 4
III. 理事会・運営委員会報告	p. 4
IV. 事務局からのお知らせ	p. 8

I. 第18回研究大会について

1. 大会日程および開催方法についてのご案内

運営委員会・理事会とシンポジウム準備会の議論を経て、第18回研究大会は2024年6月15・16日に対面とオンライン併用（部分的）大会として開催される予定になりました。前回同様、オンライン大会では「Zoom」というWeb会議用のアプリケーションソフトを使用する予定です。参加を希望される方には安定したインターネット環境のご準備をお願いします。ご懸念の方は事務局までご相談ください。参加方法などの詳細は大会プログラムでご案内いたしますが、以下に概要をお知らせいたします（以下記載にはNL48号と一部重複する箇所、修正した箇所がございます）。

参加費用は1日1,000円（両日参加で2,000円）、会員・非会員の区別はありません。学生・減額会員は1000円（両日参加）。

*参加申し込みの詳細手続きは、5月末にご案内します。

*1日目終了後、19時から学内にて懇親会を開催します。みなさまのご参加をお待ちしております。

◆日程（※は学会員限定）

◇1日目（6月15日）

9:10~11:10	休憩	11:20~12:20	休憩	13:00~14:20	休憩	14:30~18:00
KW委員会WS		総会※		特別講演		シンポジウム

◇2日目（6月16日）

9:00~11:35	休憩	12:20~14:20	休憩	14:30~16:30
一般研究発表※		若手WS		まなキキWS

2. 大会シンポジウムについて

◆ テーマ

総合人間学から「ケア」を問う：人類・社会・個人

◆ 大会シンポジウム企画趣旨

「ケア」を、こんにち用いられているように、他者を気にかけて、寄り添い、援助するあらゆる営みを包括する広い意味で捉えるならば、人間における「ケア」は、「人間性」(humanity) そのものの問題だといつてよい。

ダーウィンは、地球環境との関わりから自然選択による生物の進化を説明することで宗教的人間創造論に決定的打撃を与えたが、同時に、様々な宗教にみられる「利他」の黄金律こそ、その進化の流れの中でヒトが獲得した特質であったことをも指摘した。ダーウィン進化論のこうした側面は、20世紀前半にクロポトキンが「相互扶助論」において強調するなど分野を超えて広く知られ、一世紀以上立った今でも「見知らぬ他者への思いやりに関して、ヒトの右に出る者はいない」(マカロー『親切の人類史』)といわれるように、「人間」が「ケア」する動物であることの意義は再確認され続けている。

こうした「ケア」の問題は、18世紀のルソーの「憐憫」(pitié)、スミスの「同感」(sympathy)といった概念が示す通り、人類社会や近代国家を支える「正義」や「徳」をめぐる議論においても意識されてきた。17世紀の日本で出された「生類憐れみの令」が象徴するように、東洋においても儒教道徳や仏教における生命尊重思想などを通じて類似の問題が論じられてきた。近年でも、リベラル・コミュニタリアン論争の中でマッキンタイアが『依存的な理性的動物』を書き、「ケア」を必要とする相互依存的な生物としての人間が作り出す「徳」のあり方を問い直したように、国家や社会における「ケア」は依然重要な論点であり続け、21世紀に入ってますます盛んに論じられている。

こうした「ケア」する動物としての「人間」とは何なのか、という問いは、ユーラシア大陸と太平洋に挟まれた細い列島に住む1億以上のヒトの個体が共同して作り上げた国家が、その予算の3割以上を社会保障費に割いている現状に立てばこそ、より先鋭的に問われ得るのではないだろうか。資本主義社会における現実の「ケア」は、少なからぬ部分が低賃金労働や家族の無償奉仕で支えられており、ヤングケアラーや介護離職、ひいてはハラスメント、虐待など多くの社会問題の焦点となっている。2023年のノーベル経済学賞受賞者ゴールディンが分析した通り、「ケア」は男女の賃金格差をもたらす一つの根本的要因でもある。「ケア」は決して誰もが喜んでやりたいものではなく、むしろ、できるなら御免被りたい負担であるかもしれない。それでも私たちは、誰かに手を差し伸べたいと思い、あるいは誰かの手助けを期待してしまう。それは「人間」であるがゆえのことなのだろうか。

本大会では以上の問題意識に立脚しつつ、「人間」における「ケア」を再考することで、「人間」の一つの特徴としての「ケア」の諸相を追求し、現実の「ケア」の諸問題を乗り越えるための手がかりをそこに探してみたい。

◇ 1日目 (6月15日)

09:10~11:10 WS (1) 「総合人間学におけるキーワード(KW)とは何か、それは如何に記述されるべきか」
KW委員会

趣旨説明・経過報告 「第1期公募KW終了から第2期KW公募に向けて」

穴見 慎一さん (KW副委員長)

報告1 KW参考1「生命と人間の自律」 長谷場 健さん (KW委員長)

報告2 KW参考2「人新世って?」「健康を例に」 古沢 広祐さん (KW委員)

コメント全体討論 過去大会シンポ企画者や執筆者からのコメント、KW提案など

司会：太田 明さん (KW委員)

★参考情報

http://synthetic-anthropology.org/?page_id=2688

- 11:10~11:20 休憩
11:20~12:20 総会
12:20~13:00 昼食休憩
- 13:00~14:05 特別講演 (オンライン)
「人間にとって、ケアとは何か 一人類学・霊長学から考える」
山極 壽一さん (総合地球環境学研究所所長、京都大学名誉教授)
- 14:05~14:20 質疑応答
14:20~14:30 休憩
- 14:30~16:30 シンポジウム 登壇者3人からの講演 (報告)
報告1 資本主義社会におけるケアと経済の位置取り
——「切り離し、依存しながら、否認する」
桜井 智恵子さん (関西学院大学)
報告2 地域社会に埋め込まれたケア
——<人間的なケア>の把握に向けた予備的考察
本多 俊貴さん (拓殖大学非常勤講師)
報告3 ケアから、ケアリングへ
——ケアの継続が人の成長へとつながる学知
大橋 恵美子さん (明星学園国際医療専門学校)
- 16:30~16:40 休憩
- 16:50~17:30 コメント・パネルディスカッション
(コメンテーター) 高橋 在也さん (千葉大学)
片山 善博さん (日本福祉大学)
(司会) 蔭木 達也さん (本学会理事、企画担当)
- 17:30~18:00 質疑応答、全体討論 (後半セッションは、適宜の時間調整にて進行予定)
*シンポジウム終了後、学内にて懇親会を予定

◇ 2 日目 (6 月 16 日)

- 09:00~11:35 一般研究発表 A/B (2 会場、各 4 枠)
一般研究発表は 1 セッション 35 分(発表 25 分、質疑 10 分)、入替時間 5 分です。
- 11:35~12:20 昼食休憩 (新年度の理事・役員で可能な方はランチミーティングを予定)
- 12:20~14:20 WS (2) 若手 WS 「宗教生活のダイナミズム」
(報告) 内藤 幹生さん (元千葉県文書館嘱託職員)
前野 清太朗さん (金沢大学)
(司会 / 報告) 本多 俊貴さん (拓殖大学非常勤講師)
- 14:20~14:30 休憩
- 14:30~16:30 WS (3) 「能登半島地震の災害対策の理想と現実：
まなキキ WS 一石川県災害対策本部委員会の映像分析から」
(報告) 濱松 若葉さん (津田塾大学)
江頭 早紀さん (津田塾大学大学院国際関係学研究所 修士課程)
(司会 / 報告) 柴田 邦臣さん (駒澤大学)
松崎 良美さん (東洋大学)

II. オンライン特別企画（公開収録日 5/23）、関西談話会のご案内

◆ MLA+研究所主催・総合人間学会共催・日本博物館教育研究所協力にて、オンライン特別企画「総合一人間、学を問う：我が閉ざされた足下から開かれゆく世界に於いて、人間たる出来事を掬い取る」が、オンデマンド動画配信＋公開収録座談会の形式で実施されます（動画視聴と座談会参加どちらも要申込）。

公開（収録）座談会は2024年5月23日（木）夕方から夜間（オンライン開催）を予定、参加申し込み者にアクセス先お知らせします。詳細、申し込み（無料）は、以下のリンクをご参照ください。

<https://sites.google.com/site/mlalab20160501/JinKan2024>

◆第24回総合人間学会 関西談話会のお知らせ

日時： 2024年7月6日（土）13：30～16：30、会場： 京都市左京区役所総合庁舎会議室1A

京都市営地下鉄「松ヶ崎」駅から徒歩8分（2番出口から南へ約400m、一つ目信号を東へ約200m）

・京都市左京区役所：Tel:075-702-1000 <https://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo/>

・発表1：木村光伸：「霊長類社会における個体と集団の関係を考える」

（近著『サルはさよならを言わない―「共生」社会への視座―』をお持ちの方はご持参頂ければ幸いです。本書をお持ちでない方、また当日出席できないがこの発表に関心を持たれる方は、次のメールアドレスにご連絡頂ければ、この近著を著者から送って頂けるとのことです。（kkimura76macarena@gmail.com）

・発表2：牧野広義：「人間の尊厳と個人の尊重―法学と哲学の対話」

以上（一般来聴、歓迎） ＊問い合わせ：木下：y-kinoshita@mvp.biglobe.ne.jp

III. 理事会・運営委員会報告

2023年度 第4回 理事会・運営委員会（議事メモ）

日時 2024年2月10日（土） 13時15分～16時30分

場所 Zoom

出席 19名（役員表順・敬称略）

古沢広祐 黒須三恵 河上睦子 長谷場健 太田 明 木村武史 佐貫 浩 鈴木伸国 中村 俊
本多俊貴 松崎良美 蔭木達也 鬼頭孝佳 菊池理夫 熊坂元大 田中昌弥 宮盛邦友 楊 逸
帆 柳沢 游

報告事項

1. 事務局

- ・入退会なし。
- ・理事継続に関して19名は継続意志があり、9名は継続が困難、調整が必要だと回答した者も数名いる。3月10日までの理事推薦依頼（2名までの自薦・他薦）を送付し、回答の集まり具合によっては3月末まで締め切りを延長して追加募集する。大会の一般報告申込の締め切り延長（3月10日）のリマインドと同時に推薦依頼の件も通知することも考えられる。一般報告の追加募集については次項を参照のこと。早めの告知が望ましいが、一部郵送通知では両方の内容をお知らせする。

2. 大会企画準備会

- ・ 一般報告・WSは、第4回理事会・運営委員会開催時点で一般報告が5件、WSが2件（若手シンポ含めて3件）の応募があった。一般発表報告の申請は、3月10日まで締切を延期して追加募集する。
- ・ 演題追加募集に関連して、原則として申請時点で会員である必要がある旨は周知し、会費を納入していただく。会員拡大の機会として、新規入会希望者への特別配慮も提案されたが、従来通りの対応とする（特段の要望がある場合、別途検討）。
- ・ 大会の広報については、3月20日頃から開始する。大会シンポジウムテーマは「総合人間学から『ケア』を問う—人類・社会・個人」とする。ポスターを作成し、電子版を配信する。所属校での配布など会員に協力を求める。学習院大学の教室が確保され、利用申請が確定し次第、広報について確認・開始する。
- ・ 大会参加費について前回の運営委員会では、1,000円、2,000円など諸案があり、開催校での利用手続きが終了次第、会員・非会員・学生の区別などの検討（メール審議）が求められる。
- ・ PCは各自もしくは学会が持ち込む。投影は可能（当日までに、事前確認やリハーサルも可能）で、学内Wi-Fiも限定利用が可能。会場となる大学から学会協賛金が出る（学生バイトとして支出できるとよい）。シンポジウム準備会は4月下旬頃を予定。抄録などもあわせて準備、申込フォームの作成が必要。

3. 特別企画について

- ・ 「総合——人間、学を問う『公開収録』のおしらせ」
https://drive.google.com/file/d/1zszDu3p6YXf8fTtwRl8RHog_OrCZTpW/view
主催は鬼頭理事のMLA研究所（開催・運営は鬼頭理事が担当）。共催として、総合人間学会の学会名が入る。イベント概要の周知について、ウェブサイトの掲載、詳細が決まり次第MLに会長から発信予定。
- ・ 学会活動の活性化として、会員からの情報発信ができるML体制が持てるとよいのではないかと。

4. 各種委員会

1) 編集委員会

- ・ 次週あたりに投稿論文の掲載可否を決定予定。報告は今月中に回収予定。書籍内容も募集中。

2) 出版委員会

- ・ 大きな柱として2点の提案があがっている。
 - ① 書籍版を不定期な特別企画としてしっかりした出版をしていく。
 - ② 非会員の提案も含め、ウェブプラットフォームを構築・活用する。
- ・ 出版企画委員会を改組し、特別委員会・ウェブ委員会を分けて取り組むのはどうか。その際のリード役については課題も予想される。今年度シンポジウムの登壇者に対してどのような提案（オンラインジャーナルNo.2などに掲載する／YouTubeで公開するという2案があがっている）が可能か、検討が必要。
- ・ ジャーナル版と書籍版の統合を未来志向で進めていきたい。開催されなくなってしまった合評会の取り扱いを検討。書籍版を手放す必要はないが毎年のシンポジウムの報告をするのはマンネリ化する部分もある。不定期にすることで、しっかりした書籍を出版することが可能になる。日常的な発信はウェブのプラットフォームを活用していくとよいのではないかと。学会の内容については、オンラインジャーナル特別号などのような形で発信するのはどうか。オンラインジャーナルの投稿と報告が量的に多いことを考えると、分冊化（年2回等）も考えられる。
- ・ 18号の出版は原稿の依頼・回収中。19号については出版企画委員会とは切り離して全体をみながら判断していくとよいのではないかと。4月の運営委員会にて、改めて検討し方向を定めたい。

3) 研究談話委員会

- ・ 会員の研究成果を紹介する場、交流の機会として、翻訳など出版にともない著書（複数冊）の紹介などを開催していくことを予定。鬼頭理事の特別企画について、当初、研究談話委員会に提案されたが、鬼頭さん自身の発表ではないこと（役割がわかりにくい）、登壇者が非会員も含まれるなど、従来の枠をこえた内容なので、運営委員会での扱い（特別企画）として頂いた。

4) KW 集発刊委員会

- ・ 執筆者と協議の上、WS を大会で開催することを検討、準備している。

5) 広報委員会

- ・ 大会の日程が決まり次第、すぐに周知を進めることが必要。

6) 若手委員会

- ・ 若手シンポを調整中（大会内での開催予定に変更なし）。

7) ハラスメント委員会

- ・ 宣言案の形が整う。ハラスメント規約を作成後、会員からのパブリックコメントを求めていく。

8) 追悼論集特別企画

- ・ 継続準備にて調整中。

審議・協議事項など

1) 運営・会則等検討委員会

- ・ アンケート内容を確認した。交流、意見交換、議論の場として、KW委員会（月1程度の頻度で開催）も一つの選択肢である。さまざまな参加の仕方など選択肢を示すことができるとよいが（オンライン上のものなど）、その継続的な運営主体を確保する必要がある。顔を合わせた議論の場を設ける可能性も模索していく必要があるのではないかと。ハイブリッド環境を整えていくことも必要。
- ・ 理事のジェンダー・年齢的なバランス、専門分野も考慮する必要がある。参加しやすい仕組みとして、協力委員や協力会員などの枠組みを設ける可能性があってもよいのではないかと。現状は、女性会員の参加の意義を感じられるような内容になっていないのではないかと。
- ・ 若手委員会としては委員数を増やしたい。
- ・ 当初の委員会は慣例で理事による委員となっていたが、その後にはできた各種委員会では、理事以外の会員に委員として参加してもらうように変化している。各委員会の決定事項（委員の拡大、人数増加など）を、運営委員会にて承認するという流れでよいのではないかと。理事になったらそのまま委員会所属という位置づけにしてみてもよいのではないかと。他方で現状は、役つき理事の負担感で理事不継続が複数でている。
- ・ 出版した書籍の残部を入会者に配布するなどできるとよいのではないかと。学会会場でバックナンバーを展示、注文を受け付けるなども考えられる。かつて出版した冊子について、電子化、スキャンを忘れずしておく必要がある。これまでの既刊（本、電子ジャーナル）について、出版社関係、電子化情報などは出版企画の資料に整理されている。

2023年度 第5回 運営委員会（理事参加歓迎）（議事メモ）

日時 2024年4月27日（土） 13時15分～17時00分

場所 Zoom

出席 16名（役員表順・敬称略）

古沢広祐 黒須三恵 長谷場健 太田 明 河野貴美子 木村武史 鈴木伸国 中村 俊
本多俊貴 蔭木達也 片山善博 菊池理夫 熊坂元大 宮盛邦友 楊逸帆 柳沢 游

報告・審議事項

1. 事務局

- ・ 前回理事会後の入退会が報告された。退会3名。
- ・ 会計手続きが遅れており、総会前にメールで審議したいとの要望が事務局長からあった。総会前、5月に理事会・運営委員会が開催予定のため、そのさいに審議することとなった。
- ・ 学会の個人情報取り扱い規定（案）については、すでに理事メールで配信済み（1/30 配信、2/10 議事資料）であり、総会で承認を受ける予定。

2. 大会企画準備会

- ・ 大会のプログラム案、役割分担について詳細を検討した。会場として初日に大教室を1室、二日目に中教室を2室用意することになった。開催校のアルバイト学生には、マイクの受け渡しや会場セッティングを任せるが、会場での発表やシンポジウム、Zoom 配信に必要な機器の持ち込みとセッティング、オンライン作業、学会参加費や年会費などの金銭管理は学会が担当することを確認した。
- ・ 参加申込フォームは蔭木理事が作成した (<https://forms.gle/xVgzueRwzetTsBzd8>)。
- ・ 懇親会は、ケータリングサービスを利用して学内で行い、当日、現場で現金にて費用を支払う方向で進める。懇親会担当は次回運営委員会で決定する。
- ・ 会員からの自著の販売希望については、大会での販売を認めるが、販売作業や物品・金銭の管理に事務局は関与せず、本人の責任で管理することとした。

3. 特別企画について

- ・ 開催・運営担当者から、録画内容および資料の著作権処理案が提供された。原則として著作権は著作者に帰属するものであり、仮に学会が企画の内容を利用することを希望する場合には、著作者に改めて同意を求めることを確認し、同意書は不要と判断された。ただし当事者が著作権処理に関する何らかの懸念を抱いているならば、その解消のために詳細を検討する必要があることを確認した。

4. 次年度の役員・事務局および会員拡大について

- ・ 退任希望者16名、要調整者7名。
- ・ 専門分野・地域性・世代・ジェンダーなどのバランスを考慮したうえで、どのように後任を採用・発掘するか意見交換が行われた。編集委員会、研究談話会など複数の委員会で後任が決まらず、困難を抱えているとの報告があった。推薦者のアンケートなどをもとに、後任のお伺いを関係者（会長・副会長、事務局関係者とも相談）にて進めて次回の理事会に素案を準備することになった。
- ・ 会員がより関わりやすい体制への変革が必要であり、自由掲示板の設置や大会発表資格についても議論・検討が必要との意見が出された。また、学会活動のコアメンバーが、他の類似・隣接したテーマの学会においてもコアメンバーとなっており、労力の分散や負担の増大が生じる一因となっているとの指摘もあった。
- ・ 学会案内パンフレットの改訂版を、会長を含む3名で検討中であることが報告され、旧版サンプルが提示された。

5. 各種委員会

1) 編集委員会

- ・編集委員会委員長からの書面情報で、投稿論文は6本、査読の結果、2本が掲載となり、研究ノートは2本の応募、2本が掲載（査読無し）。
- ・オンラインジャーナルの英文タイトルおよび英文概要の掲載位置について幾つかの案が提示された。
- ・学会サイトに使用しているプロバイダの1ファイルあたりの容量制限のため、オンラインジャーナルの分冊化が必須であることが説明された。頁番号を分冊ごとに振るか通し番号にするかという点については、通し番号にする方向で検討を進めることとなった。

2) 出版企画委員会

- ・委員のうち半数ほどが一定期間活動をしていない状況なので、出版企画委員会自体を発展的再編（現委員長の退任希望と副会長を含む34名程度で再構成する案）の提案がなされた。

3) 研究談話委員会

- ・研究談話会については関西地域でも活発に独自活動が行われているため、研究談話会自体は人数を縮小してもよいのではないかと提案があった。

4) KW 集発刊委員会

- ・本多理事が新たに参加することが報告された。

8) 追悼論集特別企画

- ・継続準備にて調整中。

IV. 事務局からのお知らせ

- 1) Newsletter のメール配信について： Newsletter は、41号から郵送事務と経費削減のために、電子メール登録のある会員の皆さまには、電子メールによる配信をさせていただくこととなりました。Newsletter の発行にあわせて、学会ホームページ（HP）に、Newsletter が配信された旨告知し、会員の皆さまに電子メールでの着信をご確認いただくことといたしました。お使いのメールによって、迷惑メール等へ振り分けされるケースがありますので、見落としされませんようご注意ください。学会からのメール配信で不着信につきましては、学会事務局までご一報ください。
- 2) 会費納入状況などの確認は、学会のHPの「会員限定」のところにある、「会員用マイページ」へのアクセスで、各個人限定の閲覧にてご確認ください。
会員限定のマイページにアクセスする際は、年誌とともにお送りしている請求書に記載されているIDとパスワードをご利用ください。基本的に事務局にて慎重に管理していますので、メールアドレスや連絡先の変更などは、事務局にご一報ください。
- 3) 会員の皆さまへの会費納入の案内は、書籍版・機関誌の発送時にて、「宛名ラベル」での会費告知と振替用紙の同封の送付の際にて、行わせて頂くこととなりました。ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
- 4) 学会誌・書籍（普及ブック）版のご活用について、学会活動の貴重な成果が掲載されておりますので、ゼミ演習等でのテキスト利用など、ぜひご活用と、ご協力頂きますようお願い申し上げます。
- 5) 年度内の今後の運営委員会・理事会の日程（現時点での予定）は以下の通りです。

第6回 2024年5月25日(土)午後、理事会・運営委員会を予定

2020年度からオンライン会議による開催を踏まえて、従来の運営委員会を理事の自由参加として運営

委員会・理事会として行ってきました（2021・22年度）。2023年度も基本的には同様なのですが、会議名を明示しました。運営委員会（理事の参加歓迎）ということで、会議開催は理事メール宛として理事の積極的参加を期待してご案内いたします。

学会誌販売のご案内

総合人間学会誌『総合人間学』の以下ラインナップを、学会の在庫分にかぎり

1冊 **特価1000円**（送料別）にて販売いたします！

購入ご希望の方は、注文冊数、送付先を学会事務局までメールまたはfaxにてお送りください。

- | |
|---|
| 第13号 『科学技術時代に総合知を考える——文系学問不要論に抗して』 |
| 第12号 『〈農〉の総合人間学』 |
| 第11号 『人間にとって学び・教育とは何か——未曾有の教育危機に直面して』 |
| 第10号 『コミュニティと共生——もうひとつのグローバル化を拓く』 |
| 第9号 『〈居場所〉の喪失、これからの〈居場所〉——成長・競争社会とその先へ』 |
| 第8号 『人間関係の新しい紡ぎ方——3・11を受け止めて』 |
| 第7号 『3・11を総合人間学から考える』 |

【本件連絡先：学会事務局】

・Eメールアドレス contact@synthetic-anthropology.org

（事務連絡）

＜＜ 学会費の納入お願い ＞＞

* 総合人間学会・年会費、昨年度（2023年度）の振り込みがまだの方は、今年度と合わせてお振り込み下さい。学会誌（書籍版）送付時に振り込み用紙を同封、見当たらない方は郵便局の振込用紙にてお願いします。（過去年度未納・滞納の会員の方は、早急にご対応のほど宜しくお願い申し上げます）

● 会計年度としては、4月からは2024年度となりますので、2024年度の学会費につきまして、早めの納入をお願いいたします。6月研究大会前に、学会誌『総合人間学18』の刊行・送付をしていますので、同封の振込用紙をご利用ください。

学会費：一般：7,000円・減額：4,000円（減額は申請者のみ：学生や非常勤職などへの配慮）

・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072

① 郵便局そなえつけの振替用紙、② ATM 送金、③ 電子振込み、に対応しています。

◆ひろく学会員の門戸を開いておりますので、ご関心の方々にぜひ入会をお勧めください。

学会HP(入会案内)参照：http://synthetic-anthropology.org/?page_id=57